

# 平成 27 年度 医療安全管理部 医療安全包括的公表

医療安全管理部  
医療安全管理室

海南病院では医療安全対策に関する事案の包括公表を行っています。

## 1.目的

：患者の知る権利を保障し医療の透明性を確保するため、更に職員に医療安全の意識の向上と事故の再発防止に役立てることを目的とする。

## 2.対象

：報告の対象となるものは、患者の生死にかかわる極めて重大なものに限らず、院内で発生したすべてのインシデント・アクシデント、予期しない薬剤などによる重大な副作用や、広く社会に警笛を鳴らす意義が大きいと考えられる報告もその対象としている。

## 3.医療安全報告レベル基準

区分	内 容
レベル0	エラーや医薬品・医療用具の不具合がみられたが、患者さんには実施されなかった。
レベル1	患者さんへの実害はなかった。(何らかの影響を与えた可能性は否定できない)
レベル2	処置や治療は行なわなかった。(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査等の必要性が生じた)
レベル3 a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
レベル3 b	濃厚な処置や治療を要した。(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長)
レベル4	永続的な障害や後遺症が残った。
レベル5	死亡(原疾患の自然経過によるものは除く)

## 4.公表基準及び内容

：医療安全公表基準は、国立病院機構で使用している患者の影響度のグレード分類にしたがって報告者の評価によるレベル区分、レベル0からレベル3bまでは包括的な資料として、発生件数及び医療安全対策委員会で検討した内容及び改善策・処置などを包括的公表とする

：レベル4、5の公表に関しては、発生の原因や予防対策について事例調査検証部会確認にて検討審議し、患者あるいはその家族等の同意及び医療関係者の同意を得て、病院長の決定により公表する。

但し、患者及び家族の同意が得られない場合は原則公表しない。

## 5.平成 27 年度 医療安全対策 包括公表

(公表基準に基づき、平成 27 年度集計結果を公表。)

### 1) 平成 27 年度 医療安全報告件数

区分	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3 a	レベル3b	レベル4	レベル5
報告件数	3940 件					4 件	

：平成 27 年度医療安全報告件数は 3944 件と昨年度に比べ約 176 件減少し、報告された事案については「事象分類」において、昨年同様「ドレーン・チューブ関連」「療養上関連」「薬剤関連」の順に多く報告されている。「ドレーン・チューブ関連」の自己抜去事例や、「療養上の世話関連」の転倒・転落事例が多く報告されているためである。「薬剤関連」は、全国比率よりかなり低い状態で推移している。病棟

薬剤師の活躍や薬剤部の安全に対する取り組みが強化されたと思われる。

事故レベル 4～5 では以下の 4 件発生している。

- ① 頸動脈ステント留置中の合併症による網膜中心動脈の梗塞 1 件
- ② 転倒転落により、骨折・脳出血と診断され緊急手術となった事例 2 件
- ③ 頸椎硬膜外血腫の診断に時間を要した事例 1 件

4 件中 2 件が転倒転落によるものであった。またレベル 2～3 において事例が多く報告されている「転倒」「転落」の危険度を数値化により事前に予測し、多職種で情報を共有し対策の強化を図っている。

## 2) 平成 27 年度 発生件数情報報告

### 誤った医療の実施の有無

平成 27 年度

項目	誤った医療の実施の有無			実施あり	合計	当院比率	*全国同規模施設比率
	実施なし						
	影響度						
	当該事例の内容が仮に実施された場合						
	死亡もしくは重篤な状況に至ったと考えられる	濃厚な処置・治療が必要であると考えられる	軽微な処置・治療が必要もしくは処置・治療が不要と考えられる				
(1) 薬剤関連	0	0	215	721	936	23.7%	34.8%
(2) 輸血関連	0	0	18	2	20	0.5%	0.6%
(3) 治療・処置	0	2	111	95	208	5.3%	4.9%
(4) 医療用具	0	0	76	51	127	3.2%	2.5%
(5) トレーン・チューブ	0	9	1035	45	1089	27.6%	17.8%
(6) 検査関連	0	0	244	87	331	8.4%	9.9%
(7) 療養上関連	0	22	981	45	1048	26.6%	21.5%
(8) その他	0	0	183	2	185	4.2%	8.0%
合計	0	33	2863	1048	3944		
当院比率	0.0%	0.8%	72.6%	26.6%	100.0%		
全国同規模施設比率	0.9%	1.5%	25.4%	72.2%	100.0%		

\*医療事故情報収集等事業・第 44 回報告書全国比率は病床規模別発生件数情報報告（病床数が 500～599 床の医療機関）より算出した。

：当院は「ヒヤリ・ハット事例収集事業参加登録医療機関」として、財団法人日本医療機能評価機構「医療事故情報収集事業」に参加し、「発生件数情報」「事例情報」について情報提供している。

## まとめ

：平成 27 年度医療安全報告件数において、報告レベル 0～3 が 3,940 件（26 年度 4,118 件）で 178 件と件数が減少した。レベル 3b 以上の事案全例については、医療安全専門小委員会及び医療安全対策委員会にて検討審議し、再発防止策及び改善を講じた。

「療養上の世話関連」では、転倒転落発生件数が、件数・発生率とも減少しているが事故レベル 3b 以上の事例は昨年 1%、本年は約 3%と重症度が増している。要因として入院患者の高齢化もあり、アセスメントスコアの評価基準、身体抑制の開始時期や適切な薬剤使用など、総合的な対応が必要と思われたため、平成 27 年 11 月より転倒転落アセスメントスコアを見直し、適切なアセスメントができるよう改善した。